

長野県
信濃美術館
交流名品展

東洋と西洋のうるわしき出会い

特別展

令和2年
7月18日(土)ー8月16日(日)

午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

[会場] 飯田市美術博物館

[休館日] 7月20・27日、8月3・11日

[観覧料] 一般 610円(510円)・高校生 200円(150円)・小中学生 100円(80円)
※()内は20名以上の団体料金

[主催] 飯田市美術博物館 [共催] 長野県、長野県信濃美術館

iida city museum

飯田市美術博物館

〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655-7
TEL.0265-22-8118 FAX.0265-22-5252
<https://www.iida-museum.org/>

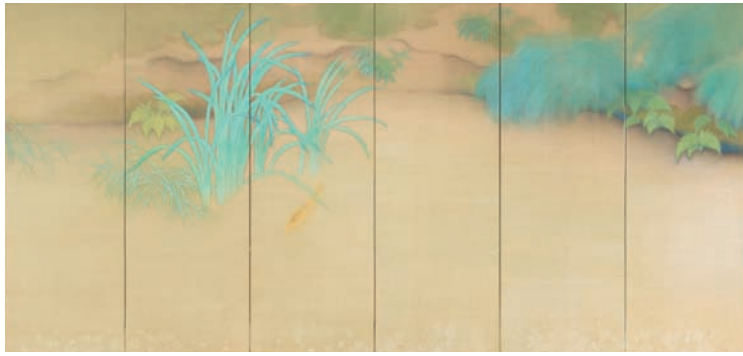
[アクセス]

JR飯田線飯田駅から徒歩20分
高速バス終点「飯田商工会館」から徒歩5分
中央自動車道飯田インターから車15分

中村不折「西洋婦人像」(部分) 明治36、37年(1903、04)

長野県信濃美術館蔵

菱田春草「羅浮仙」(部分) 明治34年(1901)頃 長野県信濃美術館蔵



菊池契月《庭の池》大正8年(1919)

明治43年(1910)、日本画家・菱田春草は、日本画と洋画について「日本人の頭で構想し、日本人の手で製作したものとして、凡て一様に日本画として見らるゝ時代が確に來ること、信じてゐる」と述べました。文明開化によって本格的に西洋からもたらされた絵画技法は「洋画」として日本に定着しました。一方で在来の日本の美術を素地として「日本画」と呼ばれる絵画が生まれました。以降、日本画と洋画はルーツを異にする絵画として、時に相対し、時に影響し合いながら独自の発展をとげました。春草の発言から百余年、日本画と洋画はいまだ統一されることなく歴史を刻んでいます。ですが両者には、様々な点で親和性を見いだすことができるでしょう。



安井曾太郎《秋の霞沢岳》昭和13年(1938)



横井弘三《浅間山風景》昭和24年(1949)頃

今回の展示は長野県信濃美術館と共同開催する特別展です。昭和41年(1966)に開館した同館は、4000点をこす個性ゆたかな作品を収蔵しています。本展では、同館の収蔵品から近現代の日本画と洋画を選抜し、個々の名品の魅力を紹介します。

関連企画

開幕記念・信州アートトレッキング講演会 「日本美術の近代-東洋と西洋のはざままで-」

令和2年7月18日(土) 午後1時30分~

〈講師〉松本透氏(長野県信濃美術館館長)

〈会場〉飯田市美術博物館 2階講堂

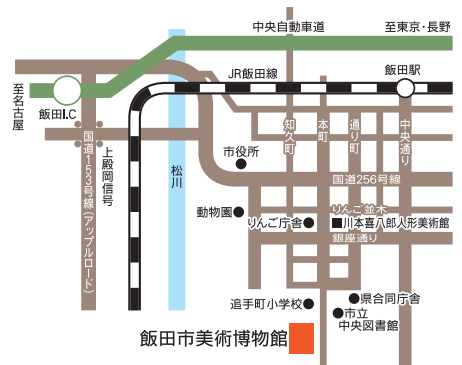
〈定員〉30人 ※手話通訳付

聴講無料 当日開館時より整理券配布(1名様につき1枚)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止する可能性があります。当館のホームページをご確認ください。



荻原碌山《女》明治43年(1910)



滝沢具幸《谿I.II.III》平成8年(1996)